

～ 一から始める「抱えない介護」への意識変革 ～

ノーリフティングケア事始め

社会福祉法人 朝老園

特別養護老人ホーム 朝老園ひさみつ

2022年6月の 朝老園ひさみつの現状

- ・入所 : 30名
- ・短期入所生活介護 : 10名
- ・平均介護度 : 4.0 (開設当初 3.3)
- ・入居者平均年齢 : 90.4歳 (開設当初87.6歳)
- ・介護職員 36名 (平均年齢 55.3歳)

↳ 腰痛有り: 26名

福祉用具の活用についての職員の意識

面倒

どんなものがあるの

使い方がわからない

待てない

人力でやったほうが早い

ノーリフティングケア取組みのキッカケ その1

現場の悩み

- ・開設6年の間に職員の移乗介助等によって骨折で入院に至った入居者4名

↳ 病院の医師の指示は、
移乗や体位交換、排せつ介助等ではできるだけ二人介助で...

- ・入居者の重度化に伴う職員の負担増 → 腰痛
- ・コロナ禍による人員不足、疲労感の蓄積

何かしらの起爆剤が欲しい...
福岡県ノーリフティングケア推進事業!!

ノーリフティングケア取組みのキッカケ その2

2011年、本体施設 朝老園で、「北欧式トランスファーテクニク」:「抱えない介護」の取組みを实践(2年間の取組み)

(しかし、活動は根づかなかった→要因は...ハード面、職員の意識)

この時のコアスタッフが、朝老園ひさみつ に勤務
スライディングシートの活用は開設当初より実践

↳ 取組体制の素地はある
職員の意識の高揚を図る為の
取組みの検討

+ 高年齢職員の健康増進



普及体制確立と取組内容 施設全体で挑む！！



実行
OJT・勉強会



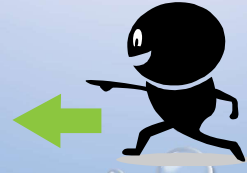
コアメンバー
企画・立案



朝老園
ひさみつ



職員会議
内容周知



リンクスタッフも含めた委員会
報告・協議・検討

普及体制確立と取組内容 今回の取組みの目標

- 1 職員の腰痛等労務負担の軽減
- 2 介助方法の振り返りと再検討
力任せの介護との決別
- 3 福祉用具活用への意識付け

福祉用具の適切な活用を目指すことで、
入居者・職員へ安全・安心な介護を届ける

取組みの実際 その1

1 職員の腰痛等労務負担の軽減

- ・6月実施の腰痛調査（36名）のうち、痛みがあると答えた職員26名に健康調査を実施

運動習慣無し

健康への意識付け



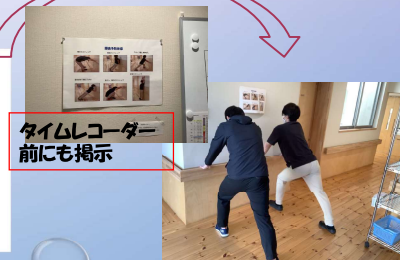
今できることから実践！！

腰痛予防のポイント・ストレッチ体操法
を指導
毎日のラジオ体操の励行

一緒に体操



ユニット各所に掲示、各自実施



取組みの実際 その2

2 介助方法の再検討・振り返り

ノーマルケアマニュアル：
やめませんか、こんなケア作成



ノーマルケア実技講習会の
動画もマニュアルに入れ込み作成



3 福祉用具活用への意識付け

荷物に埋もれているスタンディングマシン



使い方の確認

座位保持・握力のある方が対象にならないのかな

安定しているので、安心して移動可能
使い方を検討してみよう



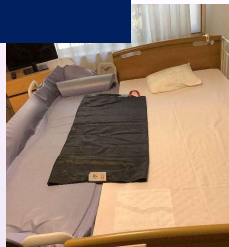
3 福祉用具活用への意識付け

フレックスボード活用



段が当たって痛い！

力任せの移乗



力任せでないから楽



スムーズで安心!(^o^)!

リフター等の活用



やってみると意外と簡単!(^o^)!



2人でしてもらうより安心



立ち上がりやすい(o)

Before

取組み結果検証

After

1 職員の腰痛当労務負担の軽減

・腰痛に関する確認ができていなかった。

2 介護方法の再検討

・スライディングシートの活用は日常的だったにもかかわらず、力任せの介護、抱え上げる介護が主流であった

3 福祉用具活用の意識付け

・開設当初に購入したスタンディングマシン、ほとんど使用せず。保管場所も不明（関心がなかった）
・福祉用具活用に拒否的意識が強かった。
・福祉用具そのものの情報収集への意識も低かった

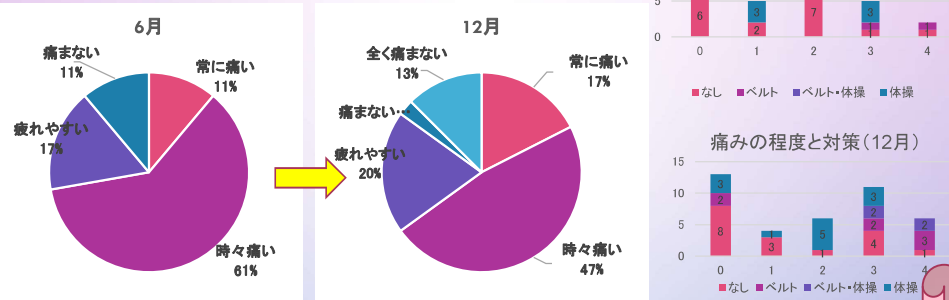
・腰痛予防体操の実施定着
・腰痛訴え者：6月72%、12月64%と若干の低下傾向

・ノーフットケアのテキストに沿った研修・理解度チェックの実施
→ 正職100%実施済み
・まだまだ「抱え上げ介護」から抜け切れていない現状→要継続研修

・スタンディングマシン、久々の活用→活用方法の再検討
・福祉用具のレンタル・活用によるリフターへの抵抗感減少、フレックスボードに関しては積極的活用体制に入った
・福祉用具の情報収集への意欲向上
・入居者の状態にあった福祉用具検討の必要性（早急な環境整備が必要）

取組みの結果・・・

◆6月・12月の腰痛調査の実施



6月に比較して、12月は「常に痛い」と回答する者が**6ポイント**上昇「痛まない・全く痛まない」と回答する者も**5ポイント**上昇。20代の職員にも腰痛を訴える者がでてきた。

なぜ増加したか

12月は、「寒さ、転倒者を床から起こす際に力任せのケアをしてしまった。腰痛ケアの実施者の減少、新規で重度な介助を要するショートステイのご利用者がいた。入居者転倒を支える際、ぎっくり腰になった」ことなどが影響していると思われる。

今後の課題

鉄は熱いうちに打て！！

ノーフットケアの取組みは、ケアの活性化に向けた単なる糸口

ワクワク・ドキドキ、積極的に取り組むための方策検討

・全ての職員を巻き込んだムーブメントの構築

(パート職員の平均年齢 **67歳**→腰痛を起こさない、腰痛を悪化させない)

・福祉用具や介護技術は日進月歩

→ 情報収集や研修の継続的実施方法の検討

・環境を整え、**安全・安心**を担保するために適切な福祉用具をチョイスすることができるための教育体制の構築